

# 長野便教会 会報

ひとつ拾えば ひとつだけきれいになる

平成28年3月13日(日)号外

## 1 新成人の門出を祝うお掃除の会

「おはようございま～す」「あけましておめでとうございます」1月9日(土)朝6時。まだ暗い中、「小布施掃除に学ぶ会」の1月の月例会に参加する人たちが続々と集まってきた。場所は、小布施町の町民会館「北斎ホール」。翌10日(日)に、小布施町の成人式の会場となる場所だ。「小布施掃除に学ぶ会」では、月例会は基本的に毎月第2日曜日に栗ガ丘小学校と決まっている。しかし毎年1月の月例会は、新成人の皆さんのお門出をお祝いする意味も込めて、成人式の会場となる「北斎ホール」を、成人式の前日にお掃除させていただいている。これは「小布施掃除に学ぶ会」10年の歴史の中で、かなり早い段階から定着していたように記憶している。

その月例会にうれしい異変が起きたのは、昨年のこと。「小布施掃除に学ぶ会」代表の木下豊さんが、成人式の実行委員会のメンバーに式前日の月例会への参加を打診したところ、新成人の皆さん「ああ、あのお掃除ですね。わかりました」と即答で参加を了承してくれたのだそうだ。新成人の皆さんがすぐに「あのお掃除ですね」と反応できるのは、「小布施掃除を学ぶ会」では毎年3月の卒業式直前の日曜日に、小布施中学校を会場にして「小布施掃除に学ぶ感謝の会」を開催してきたからである。それに、彼らの中学生時代には、長野便教会の発足メンバーである中村文成先生と武田光枝先生の重鎮2人がそろって小布施中に勤務していたわけだから、彼らにとっては中学時代に毎日やっていた”懐かしい”お掃除なのである。

そんなわけで、今年も実行委員会の皆さんを中心に、10名もの新成人の皆さんが月例会に参加してくれた。いざお掃除が始まると、「どうするんだっけ?」と言いながらも、体はしっかりと覚えているようだ。もう働いている若者は、きっと職場でも鍛えられているのだろう。あれこれ細かな指示を出さなくても、自ら汚れに気づいて黙々とお掃除をしていく姿が実際に頼もしかった。成人の日の報道を見ると、自分に与えられた時間とお金と労力を、「自分を光らせるために使う若者」がいる。その一方で、こうして「人を光らせるために使う若者」もいる。この違いは大きい。「小布施町の将来は、きっと明るい」今年もそう確信したのであった。

## 新成人の皆さんと今年も一緒に掃除できました 小布施掃除に学ぶ会・牛山 大輔

本日の「北斎ホール」のお掃除には、明日の成人式を控えた新成人の皆さん10人もご参加下さいました。昨日の連絡では参加予定者は7人だったのが、開始前には2人増えて9人。さらに後から駆けつけて下さった方が1人です。信じられません。朝早くからトイレ掃除をするのに、「寒い」とか「眠い」とかいろんな理由をつけてドタキャンしてもおかしくないところを、逆に「ドタ参する」という現実に目を疑いました。

そして、お掃除終了後の反省会の最後に、新成人の皆さんが中学生だったころに小布施中に勤務されていた中村文成先生が「今年の新成人の皆さんは、いつも3月に実施している「小布施中学校掃除に学ぶ感謝の会」が、東日本大震災で中止になった年の3年生の生徒さんだった」ことを教えてくれました。あれからもう5年が経つのですね。そして、新成人の皆さんの中には、5年前に木島平中学校で行われた「第3回清掃サミット」に参加した方もいました。おかげさまで、感慨深いご縁を感じてお掃除を終えました。

木下さんと林さんには事前にきめ細かな段取りをしていただいたおかげで、成人式主催の公民館長さんが、朝早くから気持ちよく私たちを出迎えて下さいました。初めは「見ているだけのつもりだった」という公民館長さんでしたが、次第にお掃除の魅力に引き込まれて、一緒にお掃除をして下さいました♪ そんな皆さんのお清々しい笑顔の写真を見て下さい。

5年前の卒業生の姿、本当に心強く、頼もししく、輝いて見えましたね。5年前の卒業生の皆さんも輝いていたけど、今から10年前に小布施中で一番最初にこのお掃除を始めた皆さんの姿



笑顔かがやく実行委員会の皆さんと(H28.1.9)

も、改めてここにご紹介しておきたいと思います。現在22歳。それぞれご活躍のことでしょう。

## 2 小布施中学校で取り組み始まる！～長野便教会会報No.4(平成18年12月9日付)より～

### 学級全員でトイレ掃除

小布施中学校教諭・中村 文成

10月26日の木曜日、小布施中学校1年1組33人全員がトイレ掃除に挑戦しました。(中略)

26日は、3年生がテスト、2年生が職場体験のため、1年生は特別日課となります。5、6時間目を掃除実習の時間としました。給食をいそいで食べ終えて体育館にいくと、既に小布施掃除に学ぶ会の方々が道具の準備をしてくださっていました。5時間目開始ともに挨拶をし、掃除の仕方などを教えていただきました。これに加えて、この体育館は中学校1年生とほぼ同じ年齢であること、これまで普通の掃除しかされていないこと、今日は13年分の汚れをきれいにすることなど、お話をいただきました。

掃除が始まり、男子便所の水こしをとると、強烈なにおいが体育館の外まで漂ってきました。「うわー」とか「くせー」という声が聞こえています。私は外の水道場で水こしをきれいにしました。一緒にやっていた子が「これを新庄選手の歯のようにきれいにするわけね」と言います。「きれいになったやつでビールを飲んだ人がいたそうだよ」と私が言うと「え～、これで？」と顔をしかめましたが、磨く速度があがりました。



写真を撮るために中の様子を伺うと、最初は手袋をしていた子が素手になり、いつのまにか素足になって運動着の裾をまくりあげています。充満していた臭いがほとんどしなくなり、便器の“白さ”が光ってきました。便器の中を横から、下から覗き込み、一生懸命に汚れを落とそうとしていることがわかります。最後の方は時間がなく、感想など語り合うことができなかったのが残念でしたが、教室に戻って着替えをしている顔はみな充足感あふれるいい顔をしていました。翌週の学級通信には、子どもたちが生活ノートに書いた感想をすべて載せました。その中のひとつを紹介します。



○はじめは「なんで…ヤダよ…」と思ったし、抵抗があったけど、やってみたらどんどん落ちていくのが目に見えて、やるのがどんどん楽しくなっていきました！ゴム手袋も使わなくていいや！と思って結局、裸足と素手でやりました。「根気強さ」と「集中」ということを学べた2時間でした。勉強もそうじゃないかなあと、今思いました。(女子)

11月がもうすぐ終わろうとしている現在、清掃分担を変更していただき、トイレ掃除をすることになりました。名乗り出た子は男子9名、女子11名。校内の3箇所(男女別で6箇所)の掃除をするには人数的に厳しいと思いますが、(中略)今からクラス替えまでの約4ヶ月で、どこまで綺麗にできるか楽しみです。毎日、時間いっぱいどころか、10分も15分もオーバーしながら自分たちで決めたことを終えようと頑張っている生徒に感謝しています。最近の生活ノートの文章を紹介します。

○今日のトイレ掃除では、床を主にきれいにしました。あわがどんどん茶色くなっています。落ちてる落ちてる…と思って夢中になってやりました。15分という時間がとても短く感じました。前までは、『ああ、あと1分もある…』と思っていたけど、今のこのトイレ掃除では、『ああ、あと1分しかない…』と思うようになってきました。不思議なものですね…。(女子)

○今日もトイレ掃除をしました。今日は、M便器をキレイにしました。キレイにしたといってもほんとにごく一部で、やっぱり15分って短いなあと感じます。でも、15分しかないけど、15分もあるって思ってやっています。集中すれば、もっともっと、大切なことに気づくことができるんじゃないかと思います。(女子)

クラス全員でトイレ掃除をするという貴重な経験は、木下様はじめ小布施掃除に学ぶ会の存在なしには、有り得ないのことでした。感謝の一言に尽きます。学校のトイレ掃除はもちろんですが、掃除に学ぶ会の月例会に、子どもたちが参加するようになれば恩返しができると思っています。いろいろと相談にのっていただいた多くの方々にお礼を言いたいと思います。ありがとうございました。

10年前、中村先生のクラスで始まった取り組みがやがて全校に広がり、今に至っています。「お掃除を暮らしの文化に」と歩んできた小布施掃除に学ぶ会の10年。「10年偉大なり」です。

〒383-0021 中野市西2-9-2 長野便教会事務局・太田 智明(木島平中学校教諭)

携帯電話・090-2238-2934 Eメール・otato2005@yahoo.co.jp

小布施掃除に学ぶ会HP・<http://obuse-souji.com/>